

8月28日のウクライナ情報

安齋育郎

●ドネツクのマリнкаは 75%が連合軍により解放済み(2022年8月24日)

アブディフカにウクライナ軍が集結。ロシア軍はコデマ村付近でウクライナ軍の精鋭部隊「第214OPFOR 大隊」を封鎖し、その組織的破壊を進めている。(連合軍というのは、ドネツク、ルハンスク、チェレン、ロシアなどの連合軍のことです)

<https://twitter.com/Jano661/status/1562095009830436866?s=20&t=zr4dv5Oix9qn9VVsjj6IWg>

●トルコ大統領、「ウクライナ大統領は騙されたと感じている」(2022年8月24日)

エルドアン・トルコ大統領が、「最近のゼレンスキー・ウクライナ大統領との会談で、彼に動揺した様子が見受けられた」と語りました。

ロシア・スプートニク通信によりますと、エルドアン大統領は「ゼレンスキー氏は懸念している。その懸念は、非常に大きなものだ。彼を騙している者は、非常に多く存在する。誰もが、”我々はゼレンスキー氏を助ける”などと繰り返し語っているが、実際のところはウクライナに何も与えない」と述べています。

一方でエルドアン氏は、彼自身から見て誰がウクライナ大統領を欺いているのかについては明言しませんでした。

ドイツの新聞ディ・ヴェルトは最近、「ドイツはウクライナに対する新たな兵器の引渡しを差し控えている。また、自らのこの行動を、ドイツ軍が NATO 北大西洋条約機構内での自らの任務の一部に武器を必要としているという論拠のもとに、正当化している」と報じています。



●マクレガー元米陸軍大佐より(2022年8月26日)

アメリカからウクライナに提供されたハイマースは、訓練なしにすぐ使えるような簡単な兵器ではない。米軍人が現地にいる可能性がある。ポーランドの現地にいる人物から聞いた話だが、こうやってわれわれに伝わるということは、もちろんロシア側も知っているということだ。

<https://twitter.com/Tamama0306/status/1562819767106342914?t=1AfbRzlEbzdDdEU6QdXrSA&s=09>



● 東部戦線は膠着状態なのか？(2022年8月24日)

※安齋注:フォークシンガーの原伸一さんの解説です。まるで連合軍の広報官みたいです(笑)。でも、戦況報告としては参考になるでしょう。途中、スコット・リッターの話として、ウクライナ側と連合軍側との犠牲者数の割合が 1:10~1:30らしいことに言及し、「前代未聞」と言っています。ウクライナ軍はセベルスクを少人数グループずつで去り始めたという報告もあります。

<https://youtu.be/52Iggruh7o4>

このあたり



● NATO の言説に異議を唱えるジャーナリストは「情報テロリスト」(2022年8月23日)

アメリカ国務省が後援する「偽情報への対抗」に関する円卓会議が、最近、ウクライナ国家安全保障防衛会議で開かれた。

プレスリリースによると、「NGO、マスメディア、国際専門家」が円卓会議に参加しました。代表団は、ウクライナ及び海外で使用されている「偽情報手法」について議論しました。議題には、「サイバーセキュリティの文脈における偽物と偽情報」の法的および国家的防止がありました。

ウクライナ偽情報対策センターのアンドリー・シャポバロフ所長は、「故意に偽情報を広める」人々は

情報テロリストだと強調した。シャポバロフは、これらのテロリストを取り締まるための法律の改正を勧告した - 第二次世界大戦前のナチスドイツによるメディアと情報チャンネルの抑圧を彷彿とさせます。シャポバロフは、「情報テロリストは、戦争犯罪人として法律に答えなければならないことを知るべきだ」と判断しました。

反対意見の粉碎が、ウクライナにおける NATO の代理戦争に対する国民の支持を維持するために不可欠であることは言うまでもありません。ロシア・マスコミは、既に欧米が支配するインターネット圏から一掃されています。悪名高いマイロトヴォレットツのようなウクライナの'殺害リスト'には、既に勇敢なカナダ人独立ジャーナリスト、エヴァ・バートレットや、率直なピンク・フロイドの共同創設者ロジャー・ウォーターズが含まれている。

バートレットはまた、元イギリス保守党議員ルイズ・メンシュによってツイッターで、ウクライナ特殊部隊にドネツクでの彼女の存在を警告しました。数日後、バートレットを含む複数のジャーナリストを収容するドネツクのホテルへの攻撃が行われました - 偶然？

ドイツ人ジャーナリストのアリナ・リップは、ドネツクとルガンスクでウクライナ・ナチス軍が民間人に対して日常的に犯した残虐行為を報道したとして、ドイツ政府から事実上制裁され、訴追されると脅かされている。リップはストーカーゾーンにこう語りました。

「彼らは私の銀行口座を閉鎖しました。それから彼らは父の口座を閉鎖しました。1ヶ月前、私はすべてのお金が私の口座から消えたことに気付きました - 1,600 ユーロ。私はドイツで何かが起こっていることに気付きました。数日前、検察庁から告知があり、特別作戦を支援したとして刑事事件が開かれました。ドイツでは、特殊作戦は犯罪とみなされ、私も犯罪者です。私は懲役3年か巨額の罰金を科せられます」。

イギリス人ジャーナリストのグラハム・フィリップスは、何の捜査もなしに、イギリス政権から違法に制裁を受けており、フィリップスには「返答する権利」が与えられています。彼のこの人権侵害に関するほとんどの主流メディア報道は、フィリップスを「最も著名な親クレムリンのオンライン陰謀論者の一人」と表現しています。NATO と提携しているマスコミが、挑戦的な声を非人間化し、信用を落とすために展開した、おなじみの中傷です。

標的にされている他の多くのジャーナリストと同様、2014年のワシントンのビクトリア・ヌーランドによって仕組まれたクーデター以来、NATO 代理ウクライナ・ナチスと超国家主義勢力による残忍な民族浄化で脅かされているドンバスに住んでいます。

これらのジャーナリストは、8年間、恐ろしい戦争犯罪、拷問、拘留、迫害にさらされ、欧米に無視されてきたロシア語を話すウクライナ人の声を伝えています。このために、彼らは今、NATO 加盟国によって認可されたテロリズムを暴露するので、彼らは「情報テロリスト」に指定されるべきだということです。

「オークの書」プロジェクトでは、「ロシア(オーク)戦犯」を特定し、合法的な「殺人リスト」を編纂するために200人のボランティアとされるものを雇用しているモルファー・グローバルのような組織が英国で生まれています。「オーク」の用語は、ロシア市民と軍隊をファンタジーSF モンスターに変換して、西側の大衆を沈黙させ、罰するために取られている措置を和らげるためのもう一つの非人間化プロセスです...ロシア人であること、またはロシア語を話すこと。彼らは彼らのウェブサイトのホームページで述べています：

「すべてのロシア人占領者は、法律に従って特定され、処罰されなければならない。戦争犯罪および人道に対する罪には時効がない。だからこそ、私たちはすべての人を見つけ出し、彼らが正義から逃

れるのを防ぐという目標を自分自身に設定した」。

誰がリストに載せるべきかを決めるのは誰ですか？誰が彼らの運命を決定しますか？どのような正義？ウクライナのような汚職に染み込んだ国では、反体制派の処刑や失踪、政治的・メディアの反対派が日常的に起きていますが、「オークのヒットリスト」に載っている人々に対してとられた行動について、誰が責任を問われるべきなのでしょう？これは、アメリカの”ルールに基づくグローバル・ガバナンス”の傘下に入る無法な正義です - 従うか死ぬか、新しく提出された法律は、あなたの死や国家が認可した暗殺を合法的なものにするでしょう。

円卓会議の主催者は、国家安全保障サービスアカデミー、米国国務省/国防総省が資金提供する民間研究開発基金(CRDF Global Ukraine)、国際情報アカデミー、米国国務省とリンクされた国家サイバーセキュリティクラスターでした。

アメリカとイギリスが支配する諜報機関の触手は、それぞれの政権の抑圧的な国内政策と外交政策の永久戦争目標に対して、蹴り返そうとしている社会に、ますます深く広がっています。我々は皆、攻撃を受けており、もし我々がサイクルを断ち切って反撃し始めなければ、我々は皆、ジュリアン・アサンジと同じ運命に直面しているというべきでしょう。

帝国主義戦争、人種差別、ナチズム、テロリズム、暴力的過激主義、グローバルヘルス専制政治、テクノクラート至上主義、捕食者階級エリート主義、製薬支配優生学に反対するなら、あなたは「テロリスト」です。私たちは皆「テロリスト」です。



※安齋注: 恐ろしいですね。私も立派なテロリストのようです。ウクライナ問題については、「悪魔プーチン、英雄ゼレンスキー、ウクライナ頑張れ！」と言っていれば安全なのですね。

●ウクライナ大使がローマ教皇批判、思想家娘爆殺の発言巡り(ロイター、2022年8月25日)

【バチカン市 24日 ロイター】 - ウクライナの駐バチカン(ローマ教皇庁)大使は24日、運転していた車が爆発して死亡したロシアの著名な国家主義思想家アレクサンドル・ドゥーギン氏の娘ダリア氏について、ローマ教皇フランシスコが善良な犠牲者と受け取れる表現をしたことを批判した。駐バチカン大使が公に教皇を批判するのは極めてまれ。教皇はこの日の一般謁見で、ダリア氏と思われる「(モスクワで爆死した)気の毒な女性」について触れ、「善良な人々が戦争の代償を支払う」と発言した。ダリア氏はウクライナを含むロシア語圏などのロシア統一を長年提唱している父親の思想を広く

支持し、自らも国営テレビに出演してウクライナにおけるロシアの活動に賛同していた。ウクライナの Andrii Yurash 駐バチカン大使はツイッターで、教皇の言葉は「失望的だ」と投稿。「どうすれば(ロシア)帝国主義者の1人を善良な犠牲者と呼べるのか。彼女はロシア人に殺された」と述べた。教皇は、ロシアとウクライナ双方の子どもたちが殺害されており、「孤児となることに国籍は問われない」と発言。一方、Yurash 大使は「侵略者と被侵略者、レイプの加害者と被害者を同一に語ることはできない」と投稿した。大使の投稿に対するバチカンのコメントは得られていない。



8月24日、ウクライナの駐バチカン(ローマ教皇庁)大使(写真右)は、運転していた車が爆発して死亡したロシア国家主義思想家の娘について、ローマ教皇(左)が善良な犠牲者と受け取れる表現をしたことを批判した。写真はバチカンで4月7日撮影。バチカンメディア提供(2022年 ロイター)

●ウクライナ(米・NATO 連合)を支持しているのは全人口の 15%に当たる国だけ (2022年8月25日)

